

すがわら文仁



衛生センターの復旧に全力を尽くします

【火災の概要と今後の見込み】

7月12日(土)の正午頃、蕨戸田衛生センター内にある粗大ごみ処理施設にて火災が発生いたしました。

出火場所は、施設地下1階付近であり、12時18分に消防が覚知し、近隣市の応援も含め、延べ102人・車両30台が出動し、懸命な消火活動の末、翌日午前11時に鎮火しました。

火災による人的被害はなく、焼損面積は床面積553㎡、表面積64.25㎡におよびました。この度の火災は、鎮火に長時間を要しました。主な要因として、地下からの出火で開口部がなく、煙や熱気の排出が困難であったこと、また竪穴構造の区画により煙がこもる状況であったことが考えられます。

戸田市では、今年1月の川口市の朝日環境センターの火災を受け、広報戸田市(6月号)にて、ごみの適正廃棄を呼びかけることや、市内公共施設等の小型家電回収ボックスでリチウムイオン電池の回収を開始するなどの対策を講じてまいりました。その結果、市役所へのリチウムイオン電池の持ち込みやお問い合わせも寄せられておりました。そうした中で火災が発生しました。

私自身も非常に残念であり、この事態を重く受け止めております。火災原因は現在調査中ですが、事故原因の調査と今後の再発防止を徹底してまいります。

火災によって、粗大ごみ処理施設と施設全体を動かす電源ケーブルが焼損したことから、粗大ごみ処理施設や電源が関係するごみ焼却施設の稼働再開には相当の時間を要する見込みです。一方、リサイクルプラザ、し尿処理施設、管理棟事務所については、高圧ケーブルを引き込む暫定措置を行い、令和7年8月18日から復旧する予定です。

皆様にはしばらくの間、ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



7月14日(日) 蕨戸田衛生センター
発火場所付近(地下)にて立ち入り調査

【市民の皆様へのお願い】

7月14日(月)より3日間、ごみ収集を停止しましたが市民の皆様には、ご協力いただき誠にありがとうございました。

7月17日(木)より現在まで、さいたま市、川越市、和光市、東埼玉資源環境組合(越谷市・草加市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町)、児玉郡市広域市町村圏組合(本庄市・美里町・神川町・上里町)等より、ごみの受入れと処分を行っていただいております。

近隣の首長の皆様からは「困ったときはお互い様ですから。」といった温かいお言葉もありました。ご協力いただいている関係自治体の皆様に、市長として心から御礼申し上げます。

今後は、焼損した施設の復旧を行ない、一日も早い全面的な稼働再開を目指しますが、そのための予算確保とあわせて、二度とこのような火災が起こらないよう更なる対策を講じていかなければなりません。特に、リチウムイオン電池などの発火物への対策は急務です。皆様には、リチウムイオン電池など発火の恐れのあるごみについて、市のホームページなどをご確認いただき、分別を徹底していただきますよう切にお願い申し上げます。

戸田市長 菅原文仁

市長最新ニュース

「五十にして天命を知る」論語の有名な一節です。今、改めて初心に立ち返り志を新たにしています。私の天命は、「社会の不幸を減らし、一人ひとりの幸せを増やすこと」です。この街に生きる一人ひとりの笑顔と幸せを真剣に願い、私はこれからも全力で挑戦を続けます。



4月8日

新規採用職員任命式



5月17日

戸田市民大学開講式



6月21日

荒川左岸水防組合水防演習



7月2日

三原じゅん子大臣学校視察



7月17日

戸田ブランド認定証交付式

【令和6年度決算(速報値)】

日頃より、市政運営にご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。今回は、令和6年度決算(速報値)をご紹介します。

令和6年度、戸田市の歳入総額は約686億円となり歳出総額は約640億円となりました。これを差引きすると約46億円となり、令和7年度への繰越額の2億5千万円を差引くと、実質収支(黒字額)は約43億5千万円となります。

なお、令和6年度末の全基金の合計額は約198億円となり、令和5年度末の約193億円と比べて約5億円増加しております。ここで、私の市長就任からこれまでの財政運営について、振り返りたいと思います。

【市の財政運営について】

① 基金の堅実な増加 ▶▶



7年で64.9億円増加

私が市長に就任する前年(平成29年度末)の戸田市の基金残高は、約133億円ありました。令和6年度決算(速報値ベース)の市の基金残高は前述のとおり約198億円となりますので、約65億円以上増加させている状況です。

② 借金の着実な減少 ▶▶



7年で51.0億円減少

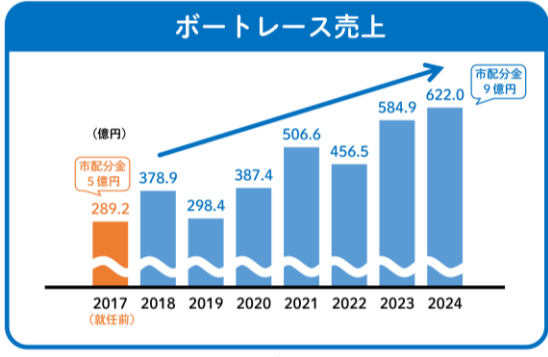
一方、市の借金である市債残高については、平成29年度末が約260億円でした。途中にコロナ禍を経て、令和6年度末には約209億円となりました。結果として、市の借金を約51億円程度減少させております。

この要因は戸田市の人口増や産業の元気な状況が続いていることとともに、職員の不断の行財政改革によるものと自負しております。

【税外収入の確保について】

その他にも、市では税外収入の確保に力を入れております。

③ ボートレース事業の経営改善 ▶▶



7年で2.1倍増加

まず、戸田市長が企業長(ボートレース戸田企業団)を務めるボートレース事業では、令和6年度の決算額(売上げ金額)は622億円となり、戸田市への配分金は9億円(令和6年度配分)となりました。

私が市長に就任する直前の平成29年度末の売上額の約289億円と比較すると、就任前から約333億円増加して2.1倍となりました。これからも、ビッグレースの誘致をはじめ、売上げ向上策を講じるとともに、市民の皆様に親しまれる地域資源としての魅力向上をはかり、健全な経営に努めてまいります。

④ ふるさと納税額の増加 ▶▶



7年で7.6倍増加

また、市長としての2期目の公約の「ふるさと納税額の向上」についても戦略的に取り組んでおります。

私自身が市内企業へ出向き、トップセールスを行ない、地域資源の発掘を行ってまいりました。その結果、平成29年度末の戸田市のふるさと納税額は約3000万円でしたが、令和6年度末には2億2000万円を超えて就任前の7.6倍となっております。

今後も市内企業への訪問や商品開発の支援により、魅力ある商品やサービスを全国に発信していくことで、ふるさと納税額向上を図ってまいります。

【入るを量りて出ずるを制す】

私はこれまで「入るを量りて出ずるを制す」という考え方を大切にしながら市の財政運営を執り行ってまいりました。

これは、二宮尊徳の唱えた「報徳思想」の中核となる言葉です。報徳思想は、「至誠(真心)」、「勤労」、「分度(身の丈に合った生活)」、「推譲(ゆずりあい)」を基本として、自然の恵みや関わる人への感謝を怠らず、共創しながらより良い社会を築いていくという考え方です。

大切なことは、単に節約するだけでなく、地域の魅力を高めて財源を生み、収入に見合った支出計画で必要な将来投資や不測の事態に備えることです。

市民の皆様からお預かりした税やその他の財源などの歳入を量り、歳出の一つひとつ、その目的と効果を見定め、真に必要な施策に不断の改革を行い、「選択と集中」の事業により、健全で持続可能な財政は実現します。

私は今後も、政策の優先順位を常に見直し、市民の皆様と対話を重ねながら、健全で活力ある戸田市を次の時代にしっかりと引き継いでいく決意です。そして市民生活の安心を守りながら、限られた財源を最大限に活かす「賢い支出」と「着実な歳入確保」に努めてまいります。



公約も着実に推進中です。

2期目の公約「安心・希望・持続可能を実現する9つの挑戦」では、9つの分野で81項目の政策を推進しています。(※詳細はHPを参照)

特に、力を入れてきた「9つの条例づくり」は、公約どおり今年4月に全て制定することができました。 ※公布日順

がん対策推進条例	R5.3.31
ケアラー支援条例	R5.3.31
人と動物の共生社会の推進に関する条例	R5.6.26
インターネット誹謗中傷等の防止に関する条例	R5.12.22
地域で子育て支援を推進する条例	R6.3.29
認知症とともに生きるあたがいまちづくり条例	R6.4.1
障がい者を理由とする差別のない共生社会づくり条例	R6.4.1
スポーツ推進条例	R6.4.1
文化芸術推進条例	R7.4.1

社会課題は目に見えづらく、時代とともに複雑化しています。そうした中で条例は、まちの未来の道しるべであり「約束のかたち」です。

市民が安心して暮らせる、誰一人取り残されないまちづくりに今後も全力を尽くします。